

「公共事業チェックとグリーンインフラを進める会」議員連盟
八代河川国道事務所からのヒアリングメモ

日時：2024年3月25日（月）14:00～15:00

出席：嘉田議員、山崎議員、今本先生、細谷先生

木本、黒田、木本千景、市花、南、土森、緒方雅子、つる、寺嶋

遠藤、遠藤幸子、近藤、原、河登、田淵

国交省対応：総務課長松本修一、副所長（河川）中島忠、流域治水課長向田清峻

【向田課長より回答】赤字は事前質問

②2020年7月4日の球磨川豪雨時の「大橋問題」について

・午前9時すぐにどっと大きな洪水が流れ込んできた事実は認めるか、否か？

人吉大橋に危機管理型水位計を設置し10分ごとに水位を観測できており、それがなめらかに上がっていくような観測ができており、段波や急激に水位が上がったようなことは確認されていない。

・九日町地点の洪水は右岸と左岸とバランスよく流れたのか？なぜ、「しぶき水が流れただけだから測定できない」という主張を国はくりかえしてきたのか？

バランスよく流れたということの意図がよく分かっていないが、人吉大橋の洪水の流れた痕跡が、流れた後に建物に残った痕跡を確認。左岸、右岸ともに大きな差がないことは確認した。人吉大橋に設置した危機管理型水位計については、水没した場合はセンサー異常という表示が出るが、その表示もなく10分に1回観測していくが、その間隔が途切れることはなく連続して水位ができた。洪水痕跡についても、水位計の観測限界の高さより低いデータで取れているので、観測できたものと考えている。

③山田川問題について、出町橋右岸地点が一番早く氾濫したという住民の証言をどう確認したか？

当方で確認しているのは、山田川出町橋付近の越水については、熊本県が地元住民に聞き取りを実施して確認したものとなっている。一番早くに氾濫を確認ではなく、6時10分に氾濫を確認した。

④万江川問題について、万江橋地点の氾濫は9時40分としているが、その判断根拠は何か？

9時40分にはすでに氾濫していたと認識。その越水状況については写真で確認した。

・山江村内での万江川の御溝川取り入れ口付近で朝6時すぎにおきた氾濫は住民による動画映像があるが、この氾濫を球磨川本流からのバックウォーター現象として説明できるのか？

万江川の御溝取入口付近の氾濫の動画映像については、こちらで確認していない。少し距離が離れているので、バックウォーター現象とからめて捉えてはいないが、河川整備で令和4年8月に我々が策定したものの整備メニューを実施した際には、球磨川本川の水位が低下することで、それに連動する万江川の水位も低下することが見込まれるため、万江川の堤防からの越水というのは、御溝取入口付近で発生しなくなるとうことは確認している。

⑤第2橋梁が朝7時半に流出した理由は何か？

朝7時半に流失したかは不明だが、令和2年7月豪雨は河川の流量が非常に大きく流下能力を超えるものであったため大きな被害を起こしたと考えている。

⑥瀬戸石橋流失の要因は何か？

同様に、令和2年7月豪雨は河川の流量が非常に大きく流下能力を超えるものであったため大きな被害を起こしたと考えている。

⑦地質とダムに関する問題で、環境影響評価で地質と放流に関する問題を無視しているのはなぜか？瀬目トンネル問題と併せて説明してください。

地質とダムの話は、本省から嘉田先生の方にこれは川辺川ダムの事務所の管轄でお答えできないということでお答えさせていただいているので、割愛させていただく。

【質疑】

②について

木本：左岸右岸の痕跡、大差ないとのことであるが、痕跡として本川球磨川の2地点をもって、水位を示されているが、実際は右岸の方が高い。「大差ない」との大差とはどの程度か？それによると1m以上違う。

それと、川から住宅地に流れ込んでいる。球磨川の水位が一番高い。痕跡よりも。じゃ

ないと逆になる。この痕跡よりも本川の水位は高い。なのになぜ、左岸の一番低い地点をもってやられたのか。その時は川はどっちに流れ込んでいたのか。

図（Youtube 動画）赤ぼち 2 つ、国交省が示したもの。

この 2 地点をもって、107.78 を示されている。実際にはこれよりもっと大きい。右岸の痕跡は全部大きい。左岸ももっと大きいところがある。なぜこの一番低い地点を選ばれたのか、流量の根拠としたのかを教えてください。

市花：

これですでに。107.9m

大橋から水が流れ込んできている。明らかに大橋の方が水位が高い。大橋の方が水位が高いということが言える。

なぜ左岸の低い方を採用したのか。

●国交省：

左岸については、先ほどの図の左岸側、川に一番近い。200m の断面を見ながら。

建物の写真も上げさせてもらっているが、痕跡が確認できるところで確認したのがこの資料。

言われるように橋に当たって水が上がっているのは確認している、流れ落ちているのも確認している。

私はそちらのものをもって、周囲の浸水の高さをもってこの側の水位と右岸側の水位をみて、それよりも低い部分で流れているというのを閉めさせていただいている。それが危機管理型水位計の観測結果と代替合っているという、水位よりも低いところで観測できている。

危機管理型水系もエラー表示もなく、連続的な数字が出ているのでデータは取れているという考え。

我々の点検結果でもそこにあって、うちとしても確認している。

木本：

先端のラップ部分が無いですよ。

●国：この写真でどうかというと、答えられない。

これにラップがついてて、さらに 40 cm から下を計測する。材木がここから上に来た。これを見て、40 cm 下計れたのか。

●国：橋げたから落ちたりという画像も見させてもらって、そういったところからも判断してデータも取れていると計測できている。

●国：データは取れているので、物があつたと仮定している。その後に物は取れたかもだけど。物はあつた。

木本：

物を見せてほしい、7月4日後にあつたというのを示してほしい。
付け替えた。その後壊れたのも不思議。

黒田：

この日の13時にこの橋の上にあった。

山崎：

水位計が動いていたか不明。追加で調べていただいて、みなさんの見解を提出お願いしたい。元々水位がいくつだったのかが、納得していない。食い違っている。大事な検証のポイントだと思うので、引き続き対応お願いします。

③住民から聞き取りしたことについて。

木本：6時10分というのが出てきたので、

国交省の資料に書かれていたよね、検証委員会の資料。

国交省が確認して書かれたと認識しているが。県は自分たちが確認したとは言わなかった。

6時55分にあそこが氾濫していない、越流していないという動画を持っている。

それも虚偽、間違いではないかと思っている。出町橋右岸。

黒田：

そちらに行っているはず。なぜなら、県と話し合った答えを聞いている。国交省がこう言っている、と。県は、私たちはバックウォーター説に基づいてやっているだけ、事実はどうあつたか関係ないと言われた。あくまでもこれを元にして答えている。国の責任。

山崎：現時点で何かコメントは。

●国：この質問をもらって確認したら、県が地元住民に聞き取りをして確認したと。今までの県とのやりとりがあつたということだが。

木本：県のやりとりは誰？

●国：県の河川課。

木本：

これは一番大事なのは、10分に氾濫したというなら、その証拠を見せて下さい。6時55分に氾濫していないという証拠はすでにお見せした。

山崎：県との間で確認いただきたい。

黒田：

山田川の問題は復興に関わっている。住民ともめている。みんな知っている。山田川は市街地よりは連続堤防で川幅広い、市内に入って曲がっている、橋いっぱい。みんなあふれた。それをバックウォーター説といっても、誰も信用しない。もめにもめるのは当然。市街地にとって重要な問題。単なる治水の問題ではない。

山崎：そういう状況の1つの事実として確認いただきたい。

④万江川の説明

黒田：

万江川の取水堰はどうか。各支川のバックウォーター区間より上流は河道を概ね流下している、とある。あなたの説明は違う。

9時40分の説明、万江川でこういう説明をしている。

今のあなたは、住民はもっと早くから氾濫していると言っている。

今本：

データのことと事実どうかと争っているが、まさかデータ国交省ごまかしませんよね。計ったデータは10分ごとに川の防災データを公開している。捏造はないと思うが、1分ごととか出せませんか。段波がきたかどうかは、10分ごとじゃ粗すぎる。

解析もしていないからせないかん。こんな重要なデータだから途中もあるんですよ。

地元の皆さんが言うのは、第四橋梁がいうのは段波状になって押し寄せているというのは、10分ごとでは粗すぎるので、1分ごととかもっておられたら示して、そうではないということを示して、それで示せると思う。出してあげていただきたい。

●国：昔の水位計は自記式であったが、今はデータが10分ごとで電子機器側で保存と、10分ごとで配信のしか残っていない。2つしかない。双方向ではないので。

木本：

水位計がちゃんとしていたのかということ
越流かどうかを確認するので大雑把なもの。
流量を算定までするのは危険であるし、洪水痕跡の低いところを算定するという根拠が私らはおかしいなと思っている。
できればそういう一緒に時間をかけて証拠をお互いに提示しあって、検証したい。

今本：

流量の計算は流出計算からしているのか。
水位でやってるんですか。
氾濫解析は福岡さんがやってたが、流量は宗室計算からやっているのか。

●国：

現行の洪水痕跡水位に沿ったものかどうかは、水位から求める。流出計算。
それが実質の洪水に合うような係数を求めている。計算過程ということ。

今本：それをごまかしたら終わり。

●国：それはしていない。

木本：

山田川の件、合流点から徐々に氾濫したというのが、山田川でも万江川でも違う現象が起きている。
6:30で万江川で2キロ3キロ上流をバックウォーターとしていると説明できますか、ということ。
山田川でも同様。背景はもっと上流で、河口氾濫の前に氾濫して私も逃げている。
本流の方が高かったので河口から氾濫するという説明ができるのか、ということ。

●国：

合流点の水位が上がった場合は、水位計算でも出発水位が違うので水位があがるのは往々にしてありますというのはある。バックウォーターで痕跡水位から見ても、下流の水位が上がることでそこがあふれたということは、ご理解いただいている部分がある

と思う。

私の回答について。

万江川の御溝川を取入口の話については、球磨川合流点から離れているのでバックウォーターとは考えていない。

上流の洪水調整施設、万江川の対策、を組み合わせることで、万江川の堤防の越水がなくなる、ということを確認させていただいているということ。

そちらの説明を間違っているとの認識もない。

そういうものですということ。

山崎：

すべてバックウォーターに紐づけているがそういうことではないということか。

木本：

検討資料ではそうである。

●国：

一部区間でそういうところもある、ということ。

遠藤：

バックウォーターで説明できるものなのかどうか、これから確認したいということか。

●国：

本川水位が下がった時にどうなるかは検証している。

遠藤：

本川水位が下がった話はしていない。

．．．

まあまあ

黒田：

県が調べたのはずっと後です。

誰がいったか、若い子に行かせた。

●山田川は本流が下がったら山田川は氾濫しない

今本：それはちょっとおかしい

こんなにずっと調べている。

事実を調べている。

あなた方は川辺川ダムが有利になるようにしようとしている。齟齬が出ている。

山田川はあんなんバックウォーターじゃない。

出口が小さい、山田川が高い。

それで被害が出ている。

それが不信に思わないように・・・納得できないでしょう。

木本：

どうやってパラベットから越流したのか理解できないと思う。

それを逆にどうして河口から 500m も 1 km も先に氾濫した理由はなにかということ、見た私たちが納得できるように説明してほしい。

嘉田：バックウォーターでは納得できない。

山崎：それぞれの地域の事象を明確にしないと

そういうところとそうでないことを具体例で切り分ける必要がある。

木本：

五十鈴橋、泉田橋、その上に J R の鉄橋、その上に染土橋。

当日その橋の状態がどうだったか、県には写真も出して説明した。そこにすごい流れが集まって木材よりはヨシとかが多かったが、欄干に全部くっついて流れが速いから堆積する。それが水の流れを阻害して市街地に流れている。実際にその後もあった。そこにすごい流れが生じないと堆積しない。ゴミみたいなものが

それが当たって、ダム化して、そこに当たった水がパラベットを越して流れた。

すごい勢いで流れるということがさっきのバックウォーターとは違う、と認識している。

南：

本川と支線の話。

時刻のことを国は問題にしていない。

本川は山田川で亡くなった方が発生したときより本川が上流するのは後。

それも配慮しないでバックウォーターとはおかしい話。

木本：

山田川は 9 : 5 0 がピーク。

人吉市街地で亡くなったのは7時半から8時より前と推定。
ピークを下げれば人命が救われるのはおかしいと思っている。

⑥

土森：さっきの答えだが、それはどこでもそう言える。答えになっていない。
上流にある構造物の瀬戸石ダムとの関連性を調べてこそ、有効。どう認識しているのか。
毎回はっきりと回答が得られない。瀬戸石ダムがあって流下能力が大きくなったという
ことではないのか。

●国：

令和2年7月豪雨は計画規模を上回るので、流量が肥えるので、大きな被害をもたらした。

嘉田：それはあまりに一般論。

南：そういう時に瀬戸石ダムがあった場合となかった場合にどうなのかと聞いている。
瀬戸石ダムがあったから被害が大きい、なければ被害がなかった。
大きな洪水だったからということは説明にならない。

嘉田：

国会で瀬戸石ダムがなかったら上流と下流がどうなったかで質問させてもらう。

土森：

電源開発が撤去を望んでいないからそういうシミュレーションしていないと国交省が
言った。一応。

嘉田：

国会で議論しましょう。

今本：

こういう考え方が違うのはある。事実かどうかというのは共通だと思うんですよ。そういう
ところがね、もっと地元の人意見を国交省の人間だつて限られているからずっと見
てられないから、見ていた人の意見を聞いて思い違いもあるかも事実でないところも
あるかもだけど、できるだけ聞いて、事実はどうなのか、事実だけは共通認識にしてほ
しい。

科学者として事実をサイエンスとして追及する
事実に基づいた選択をしないと空振りになる。そのことを地元の人にとってはとても気にしている。どんなにお金をかけても。まだまだこの問題。

水位の問題。

水位計がどういう状態だったのか、具体的に示す努力をお願いしたい。

氾濫の原因

私はもっと具体的な氾濫な状況を市民の人からも提案いただいているので、それを踏まえて、原因の特定をしっかりとやっていただきたい。情報提供をさらにお願いたいがどうか（手渡す会）

ピックアップしていただいてそれに基づいて判断

嘉田：

山田川のバックウォーターは何時何分差し込んでいるのか、差し込む水と上を流れる水を立体的なシミュレーションをしてほしい。

国会でも質問を出す。

上を流れるのと、バックウォーターの時間差も含めてお示しいただきたい。

山崎：

瀬戸石ダムについてはもう一回国会で。

先ほどの説明では一般論過ぎる。

具体的な事象を捉え直していただきたい。

⑦

木本：地質について

前の川辺川ダムで松本はたお先生があそこは踏査して危険箇所を指摘している。国交省も瀬目トンネルの掘り直しが問題になっている、重々承知と思うが、今回はアセスでは地質のことが触れられていない。地質については改めてそちらから出していただきたい。

実際に山が動いている場所がある。言わなくてもご存知と思う。

ここが本当に危険なんだよということを、地質の問題は改めて機会があればお聞きしたい。

国会で改めて。

以上